リハビリテーション科専門研修カリキュラム

研修の達成レベルと評価基準

総論と各論の各項目について到達すべきレベルを示す。
到達レベルおよび評価基準の指標は以下のとおりである。

到達レベル

Ⅰ. 知識

A：正確に人に説明できる
B：よく理解している
C：概略を理解している

Ⅱ. 診断・評価（検査）

A：自分一人でできる／中心的な役割を果たすことができる
B：指導医のもとでできる／適切に判断し専門診療科と連携できる
C：概略を理解している、経験している

Ⅲ. 処置・治療

A：自分一人でできる／中心的な役割を果たすことができる
B：指導医のもとでできる／適切に判断し専門診療科と連携できる
C：概略を理解している、経験している

Ⅳ.学問的姿勢

A：自分一人でできる／中心的な役割を果たすことができる
B：指導医のもとでできる
C：概略を理解している、経験している

Ⅴ.倫理・社会など

（1）（2） A：正確に人に説明できる
B：よく理解している
C：概略を理解している

（3）（4） A：自分一人でできる／中心的な役割を果たすことができる
B：指導医のもとでできる
C：概略を理解している、経験している

評価基準

３：目標に達した
２：ほぼ目標に達した
１：さらに努力を要する

経験するべき数　　経験するべき最低限の数を示している
総論　ⅠからⅤにおいては、特に記載がないものは1例（1回）以上
各論　（1）から（8）については下記

各論における最低限必要な経験症例数と詳細な疾患群ごとの症例数
（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など：15例　うち脳血管障害13例　外傷性脳損傷2例
（2）外傷性脊髄損傷：3例　（但し、脊髄梗塞、脊髄出血、脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍等、外傷性脊髄損傷と同様の症状を示す疾患を含めてもよい）
（3）運動器疾患・外傷：22例　うち　関節リウマチ2例以上　肩関節周囲炎・腱板断裂などの肩関節疾患2例以上　変形性関節症(下肢）2例以上
骨折2例以上　骨粗鬆症1例以上　腰痛・脊椎疾患2例以上
（4）小児疾患：5例　うち　脳性麻痺2例以上
（5）神経筋疾患：10例　うち　パーキンソン病2例以上（但し、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症などを含めてもよい）
（6）切断：3例
（7）内部障害：10例　うち呼吸器疾患2例以上　心・大血管疾患2例以上　末梢血管障害1例以上　その他の内部障害2例以上
（8）その他：7例　うち廃用2例以上　がん1例以上
注1：必須となっている疾患は、主病名でなく併存病名であっても経験症例として認める。
注2：必須となっていない疾患についても、できるだけ多くの疾患のリハビリテーションを経験することが望ましい。

総論　IIとIIIにおいては、経験するべき数について2以上が指定されているものについては、経験ごとにNo.1　No.2　と記入していくこと。

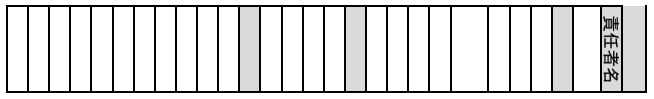
項目	到達レベル			経験すべき症例数			自己評価	指導責任者評価			
	1年次	2年次	3年次		実施日	症例の年齢性別		評価	施設番号	評価日	指導者名
摂食嚥下訓練				2							
間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.1	2014/1/10	998877	3	3	A1111	2014/1/10	*Sig*
間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.2	2014/3/3	667788	3	3	A1111	2014/3/4	*Sig*

総論　IVとVにおいては、学会発表、研修会参加等について、下記のように経験ごとにNo.1　No.2　と記入していくこと。最低限の数を超えて記入する必要はない。

項目	到達レベル			経験した日付・内容				1年次自己評価	1年次指導責任者評価			
	1年次	2年次	3年次	経験数	名称	日時	内容		評価	施設番号	評価日	責任者名
学会主催の講演会、研修会に参加している	B	B	B	2	名称	日時	内容					
				No.1	〇〇研修	2014/2/10	〇〇の基	3	3	A1111	2014/2/12	*Sig*
				No.2	△△研修	2014/6/10	△の応用	2	3	A1111	2014/6/12	*Sig*

Ⅰ 専門知識

分類	項目	到達レベル			1年次 自己評価	1年次指導責任者評価				2年次 自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価		
		1年次	2年次	3年次		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日
Ⅰ	専門知識□																	
(1)	リハビリテーション医学概論																	
		B	B	A														
(2)	機能解剖・生理学																	
a	筋骨格系（骨，関節，靭帯，骨格筋）	B	B	A														
b	神経系（中枢神経系・末梢神経系・自律神経系，感覚器）	B	B	A														
c	呼吸・循環器系	B	B	A														
d	運動生理学	B	B	A														
e	摂食嚥下	B	B	A														
f	排泄（排尿・排便）	B	B	A														
(3)	運動学																	
a	上肢	B	B	A														
b	下肢	B	B	A														
c	歩行と姿勢	B	B	A														
d	発達と反射	B	B	B														
(4)	障害学																	
a	運動障害	B	B	A														
b	感覚障害	B	B	A														
c	高次脳機能障害	B	B	A														
d	摂食・嚥下障害	B	B	A														
e	排泄障害	B	B	B														
f	安静・臥床の病態	B	B	A														
g	廃用症候群	B	B	A														
h	日常生活動作障害	B	B	A														
i	ICF	B	B	A														
j	QOL	C	B	B														
k	障害の経過（急性期・回復期・維持期）	B	B	A														


准考證號碼

分類	項目	到達レベル			経験した症例			1年次自己評価	1年次指導責任者評価				2年次自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価			
		1年次	2年次	3年次	症例数	実施日	症例の年齢性別		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
Ⅱ	専門技能（診断・評価）																					
(1)	リハビリテーション診断学																					
a	画像診断																					
①	単純X線撮影（胸部/腹部/脊椎/四肢）																					
	単純X線像を読影し，基本的な異常を指摘できる	A	A	A																		
②	頭部CT／MRI																					
	頭部CT／MRI像を読影し，脳血管障害や外傷性脳損傷，水頭症等の基本的な異常を指摘できる	B	A	A																		
	脳出血・脳梗塞及び出血性梗塞のCT所見を見て発症からの時期を把握できる	B	A	A																		
	CT／MRI所見上の障害された部位を機能解剖学的に把握できる	B	A	A																		
③	脊椎・脊髄MRI																					
	脊椎・脊髄MRI像を読影し，脊髄損傷やヘルニア，脊柱管狭窄症等の基本的な異常を指摘できる	B	A	A																		
④	核医学																					
	脳血流シンチ像を読影し，脳血管障害や頭部外傷等の基本的な異常所見を指摘できる	C	B	B																		
	骨シンチ像を読影し，転移性骨腫瘍等の基本的な異常所見を指摘できる	C	A	A																		
b	電気生理学的診断				2																	
①	筋電図				1																	
	主な筋の針筋電図を行い，評価判定できる	C	B	B																		
②	神経伝導検査				1																	
	主な神経の伝導速度を評価判定できる	B	A	A																		
③	脳波																					
	脳波検査の結果を解釈できる	C	C	C																		
④	体性感覚誘発電位																					
	体性感覚誘発電位(SEP)を実施できる	C	C	C																		
⑤	心電図																					
	心電図検査を行い，虚血性変化，不整脈等異常所見を指摘できる	A	A	A																		
c	病理診断																					
①	筋																					
	簡単な筋組織の病理所見が読める	B	B	B																		
②	神経																					
	簡単な神経組織の病理所見が読める	B	B	B																		
d	超音波検査																					
	簡単な脈管、筋骨格系の超音波検査が施行できる	C	B	A																		
e	その他																					
	骨密度																					
	骨密度検査の結果を解釈できる	B	A	A																		
(2)	リハビリテーション評価																					
a	意識障害の評価																					
	Japan Coma Scale (JCS) Glasgow Coma Scale (GCS) による意識障害の評価が行える	A	A	A																		
b	運動障害の評価																					
①	関節可動域																					
	四肢・体幹の関節可動域を測定できる	B	A	A																		
②	筋力																					
	四肢・体幹の筋力をMMTで測定できる	B	A	A																		
③	麻痺																					
	運動麻痺の有無と程度を評価できる	B	A	A																		
④	失調																					
	失調の有無と程度を評価できる	B	A	A																		
⑤	痙縮と固縮																					
	Ashworth Scale (Modified Ashworth Scale) による痙縮の評価が実施できる	B	A	A																		
⑥	不随意運動																					
	不随意運動の種類を評価できる	B	A	A																		
c	感覚障害（疼痛を含む）の評価																					
	表在感覚・深部感覚・二点識別覚を評価できる	B	A	A																		
d	言語機能の評価				2																	
①	失語症																					
	SLTA,WAB失語症検査に基づき評価ができる	C	B	B	No.1																	
	失語症と認知症の鑑別ができる	B	A	A	No.1																	
②	構音障害																					
	会話明瞭度で分類できる	C	C	C	No.1																	
①	失語症																					
	SLTA,WAB失語症検査に基づき評価ができる	C	B	B	No.2																	
	失語症と認知症の鑑別ができる	B	A	A	No.2																	
②	構音障害																					
	会話明瞭度で分類できる	C	C	C	No.2																	
e	認知症・高次脳機能の評価				2																	
①	知的機能障害，認知症																					
	認知症を診断できる（DSM IVに基づいて）	C	B	A	No.1																	
	HDS-R，MMSEを実施できる	A	A	A	No.1																	
	WAIS、WISCの解釈ができる	B	A	A	No.1																	
②	記憶障害																					
	WMS-R　RBMTの解釈ができる	C	B	A	No.1																	
	健忘を診断できる（DSM IVに基づいて）	C	B	A	No.1																	
③	失行																					
	失行を診断できる	C	B	B	No.1																	
④	失認																					
	失認を診断できる	C	A	A	No.1																	
⑤	注意障害																					
	注意障害の診断ができる	B	A	A	No.1																	
	PASAT，TMT，標準注意検査法（CAT)を評価できる	C	B	B	No.1																	
⑥	遂行機能障害																					
	WCST,BADSを評価できる	C	B	B	No.1																	
①	知的機能障害，認知症																					
	認知症を診断できる（DSM IVに基づいて）	C	B	A	No.2																	
	HDS-R，MMSEを実施できる	A	A	A	No.2																	
	WAIS、WISCの解釈ができる	B	A	A	No.2																	
②	記憶障害																					
	WMS-R　RBMTの解釈ができる	C	B	A	No.2																	
	健忘を診断できる（DSM IVに基づいて）	C	B	A	No.2																	
③	失行																					
	失行を診断できる	C	B	B	No.2																	
④	失認																					
	失認を診断できる	C	A	A	No.2																	
⑤	注意障害																					
	注意障害の診断ができる	B	A	A	No.2																	
	PASAT，TMT，標準注意検査法（CAT)を評価できる	C	B	B	No.2																	
⑥	遂行機能障害																					
	WCST,BADSを評価できる	C	B	B	No.2																	
f	心肺機能の評価																					
①	一般肺機能検査																					
	一般肺機能検査で基本的な異常を評価できる	A	A	A																		
②	運動負荷試験																					
	運動負荷試験を施行できる	B	A	A																		
	運動負荷試験の禁忌と中止基準を理解している	C	B	B																		
	リスク管理と緊急時の対応ができる	C	B	A																		
g	摂食・嚥下の評価				2																	
①	スクリーニングテスト																					
	水飲みテスト・反復唾液嚥下テストの実施と解釈ができる	B	A	A	No.1																	
②	嚥下造影																					
	嚥下造影を施行し，読影・結果の解釈ができる	C	B	A	No.1																	
③	嚥下内視鏡																					
	嚥下内視鏡を施行し結果の解釈ができる	C	B	B	No.1																	
①	スクリーニングテスト																					
	水飲みテスト・反復唾液嚥下テストの実施と解釈ができる	B	A	A	No.2																	
②	嚥下造影																					
	嚥下造影を施行し，読影・結果の解釈ができる	C	B	A	No.2																	
③	嚥下内視鏡																					
	嚥下内視鏡を施行し結果の解釈ができる	C	B	B	No.2																	
h	排尿の評価				2																	
①	排尿の理学的所見																					
	排尿の理学的所見が評価できる	B	A	A	No.1																	
②	排尿の画像診断																					
	造影レントゲン検査(IP,CG,UG)の結果を解釈できる	B	A	A	No.1																	
③	尿流動態検査																					
①	排尿の理学的所見																					
	排尿の理学的所見が評価できる	B	A	A	No.2																	
②	排尿の画像診断																					
	造影レントゲン検査(IP,CG,UG)の結果を解釈できる	B	A	A	No.2																	
③	尿流動態検査																					
	尿流動態検査の結果を解釈できる	B	A	A	No.2																	
i	成長・発達の評価																					
	主な反射、反応を評価できる	B	A	A																		
	粗大運動や評価尺度から発達状態を評価できる	C	B	B																		
j	障害者心理の評価																					
	障害の受容過程に沿って，患者の心理状態を把握できる	C	B	B																		
k	歩行の評価																					
	異常歩行を診断できる	B	A	A																		
	異常歩行を評価し原因を推定できる	B	A	A																		
l	ADLの評価																					
	FIMによる評価ができる	A	A	A																		
	Barthel indexによる評価ができる	A	A	A																		
m	IADLの評価																					
	IADLの項目を挙げ，その評価ができる	B	A	A																		
n	参加制約（社会的不利）の評価																					
	参加制約（社会的不利）の状況を把握できる	B	A	A																		
o	ICFの評価																					
	障害をICFで評価することができる	B	A	A																		

分類	項目	到達レベル			経験した症例			1年次 自己評価	1年次指導責任者評価				2年次 自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価			
		1年次	2年次	3年次	症例数	実施日	症例の年齢性別		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
Ⅲ	専門技能（治療 ）																					
a	全身状態の管理と評価に基づく治療計画																					
①	健康状態管理																					
	患者の健康状態を管理できる	A	A	A																		
②	高血圧・糖尿病・脂質異常症などの併存疾患の管理																					
	併存疾患の管理ができる	B	A	A																		
③	急変（ショック）時の対応（BLS）																					
	患者急変（ショック）時に適切に対応できる(BLS)	B	A	A																		
④	廃用症候群の予防・治療																					
	廃用症候群を予防できる	A	A	A																		
	廃用症候群を治療できる	B	A	A																		
⑤	栄養管理																					
	胃瘻，腸瘻などによる適切な栄養管理ができる	B	A	A																		
	適切な食形態・栄養量・水分量に調整できる	B	A	A																		
⑥	リスク管理																					
	リハビリテーションの禁忌・中止基準を理解している	B	A	A																		
b	障害評価に基づく治療計画																					
①	予後予測																					
	障害評価に基づき予後予測ができる	B	A	A																		
②	治療期間とゴール設定																					
	障害評価に基づき適切な治療期間とゴール設定ができる	B	A	A																		
③	エビデンスに基づく治療																					
	ガイドラインなどに準じてリハ処方ができる	A	A	A																		
c	理学療法				2																	
①	運動療法																					
	主な関節の関節可動域訓練ができる	B	B	B	No.1																	
	障害評価に基づいた筋力増強・持久力訓練が処方できる（等張性・等尺性・等運動性）	B	A	A	No.1																	
	障害評価に基づいた治療体操ならびに持久力訓練が処方できる	C	B	B	No.1																	
	障害評価に基づいて歩行訓練が処方できる	B	A	A	No.1																	
	呼吸理学療法の指導・処方ができる	B	A	A	No.1																	
②	物理療法																					
	温熱療法（ホットパック，極超短波，超音波，レーザー等）の適応・特徴を把握し，適切に処方できる	B	A	A	No.1																	
	低周波治療が適切に処方できる	B	A	A	No.1																	
	水治療が適切に処方できる	B	A	A	No.1																	
	頚部と腰部の牽引が処方できる	C	B	B	No.1																	
③	バイオフィードバック療法																					
	バイオフィードバック治療による運動学習を実施できる	C	B	B	No.1																	
①	運動療法																					
	主な関節の関節可動域訓練ができる	B	B	B	No.2																	
	障害評価に基づいた筋力増強・持久力訓練が処方できる（等張性・等尺性・等運動性）	B	A	A	No.2																	
	障害評価に基づいた治療体操ならびに持久力訓練が処方できる	C	B	B	No.2																	
	障害評価に基づいて歩行訓練が処方できる	B	A	A	No.2																	
	呼吸理学療法の指導・処方ができる	B	A	A	No.2																	
②	物理療法																					
	温熱療法（ホットパック，極超短波，超音波，レーザー等）の適応・特徴を把握し，適切に処方できる	B	A	A	No.2																	
	低周波治療が適切に処方できる	B	A	A	No.2																	
	水治療が適切に処方できる	B	A	A	No.2																	
	頚部と腰部の牽引が処方できる	C	B	B	No.2																	
③	バイオフィードバック療法				No.2																	
	バイオフィードバック治療による運動学習を実施できる	C	B	B	No.2																	
d	作業療法				2																	
①	機能的作業療法																					
	関節可動域訓練を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.1																	
	筋力増強を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.1																	
	上肢の巧緻性訓練を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.1																	
②	高次脳機能障害に対する作業療法																					
	高次脳機能の障害評価に基づいて作業療法を処方できる	B	A	A	No.1																	
	高次脳機能障害を有する患者・家族に生活・介護指導ができる	B	A	A	No.1																	
③	ADL，IADL訓練				No.1																	
	ADLの指導を患者・家族に行える	B	A	A	No.1																	
	買い物などのIADLの指導を患者・家族に行える	B	A	A	No.1																	
④	家屋改造																					
	家屋改造の指導ができる	C	B	B	No.1																	
①	機能的作業療法																					
	関節可動域訓練を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.2																	
	筋力増強を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.2																	
	上肢の巧緻性訓練を目的とした作業などを処方できる	B	A	A	No.2																	
②	高次脳機能障害に対する作業療法																					
	高次脳機能の障害評価に基づいて作業療法を処方できる	B	A	A	No.2																	
	高次脳機能障害を有する患者・家族に生活・介護指導ができる	B	A	A	No.2																	
③	ADL，IADL訓練																					
	ADLの指導を患者・家族に行える	B	A	A	No.2																	
	買い物などのIADLの指導を患者・家族に行える	B	A	A	No.2																	
④	家屋改造				No.2																	
	家屋改造の指導ができる	C	B	B	No.2																	
e	言語聴覚療法				2																	
①	失語症																					
	言語聴覚療法を処方し，患者・家族に指導できる	B	A	A	No.1																	
②	構音障害																					
	言語聴覚療法を処方し，患者・家族に指導できる	B	A	A	No.1																	
①	失語症																					
	言語聴覚療法を処方し，患者・家族に指導できる	B	A	A	No.2																	
②	構音障害																					
	言語聴覚療法を処方し，患者・家族に指導できる	B	A	A	No.2																	
f	義肢				2																	
	義手の処方と適合判定ができる	C	B	A	No.1																	
	義足の処方と適合判定ができる	C	B	A	No.1																	
	義手の処方と適合判定ができる	C	B	A	No.2																	
	義足の処方と適合判定ができる	C	B	A	No.2																	
g	装具・杖・車椅子など				2																	
	上肢装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.1																	
	下肢装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.1																	
	体幹装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.1																	
	杖や歩行補助具の処方ができる	B	A	A	No.1																	
	車椅子の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.1																	
	座位保持装置の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.1																	
	上肢装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.2																	
	下肢装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.2																	
	体幹装具の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.2																	
	杖や歩行補助具の処方ができる	B	A	A	No.2																	
	車椅子の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.2																	
	座位保持装置の処方と適合判定ができる	B	A	A	No.2																	
h	訓練・福祉機器				2																	
①	自助具																					
	自助具の紹介，家族指導ができる	B	A	A	No.1																	
②	環境制御装置																					
	環境制御装置を処方できる	C	B	B	No.1																	
①	自助具																					
	自助具の紹介，家族指導ができる	B	A	A	No.2																	
②	環境制御装置																					
	環境制御装置を処方できる	C	B	B	No.2																	
i	摂食嚥下訓練				2																	
	間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.1																	
	間接訓練と直接訓練を処方できる	B	A	A	No.2																	
j	排尿・排便管理																					
①	排尿管理																					
	間歇的導尿法(方法)を患者への指導と管理ができる	C	B	B																		
	集（収）尿器の紹介ができる	B	B	B																		
	膀胱瘻の管理・処置ができる	C	C	C																		
②	排便管理																					
	緩下剤・坐薬・浣腸の処方・管理，食事・生活指導ができる	B	B	A																		
③	尿路合併症の治療																					
	合併症(尿路感染，結石，膀胱尿管逆流)の治療，泌尿器科へのコンサルテーションができる	B	B	B																		
k	ブロック療法				2																	
①	神経・筋ブロック																					
	主要な神経の神経ブロックが実施できる	C	B	A	No.1																	
	主要な筋の筋内神経ブロックが実施できる	B	B	A	No.1																	
②	トリガーポイントブロック																					
	腰痛・項部痛のトリガーポイントに対して注射ができる	C	C	C	No.1																	
①	神経・筋ブロック																					
	主要な神経の神経ブロックが実施できる	C	B	A	No.2																	
	主要な筋の筋内神経ブロックが実施できる	B	B	A	No.2																	
②	トリガーポイントブロック																					
	腰痛・項部痛のトリガーポイントに対して注射ができる	C	C	C	No.2																	
l	心理療法																					
①	認知障害に対するもの																					
	神経心理学的アプローチができる	C	C	C																		
②	心理的サポート																					
	患者の心理状態を概ね把握し，初歩的なカウンセリングができる	C	C	C																		
	患者の心理状態に合わせた接し方やチームへの指示ができる	C	B	B																		
m	薬物療法																					
①	痙縮に対する処方																					
	痙縮に対し，筋弛緩薬の処方ができる	B	A	A																		
	痙縮に対し，筋弛緩薬以外の治療手段が検討できる	B	A	A																		
②	排尿排便障害に対する処方																					
	病態に応じた薬物療法が行える	C	B	B																		
③	疼痛に対する処方																					
	局所の疼痛を評価し，鎮痛薬の処方ができる	B	A	A																		
④	症候性てんかんに対する処方																					

	脳損傷等による症候性てんかん患者に対し，抗てんかん薬の処方ができる	C	B	B																		
	痙攣発作時に治療ができる	C	B	B																		
⑤	精神症状(うつ状態，不穏など)に対する処方																					
	うつ状態の患者に抗うつ薬の処方ができる	C	B	B																		
	脳損傷患者のせん妄や痴呆・攻撃的行為に対し，薬物治療ができる	C	B	B																		
⑥	異所性骨化に対する処方																					
	異所性骨化の薬物療法ができる	C	B	B																		
n	生活指導																					
	障害に対応した生活指導ができる	B	B	B																		
	各疾患に対する二次障害・再発予防のための生活指導ができる	B	B	B																		
	社会参加に関する生活指導ができる	C	B	B																		

Ⅳ 学問的姿勢

分類	項目	到達レベル			経験した日付と内容				1年次	1年次指導責任者評価				2年次	2年次指導責任者評価				3年次 自	3年次指導責任者評価			
		1年次	2年次	3年次	経験数	名称	日付		自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名
Ⅳ	学問的姿勢																						
(1)	科学的思考・論理的思考																						
	効率的な診療を行うために，clinical reasoning （診療における推論過程）を理解し，実践できる．	B	B	B																			
	科学的根拠に基づく医療を行うために，Evidence-based Medicine（EBM）を理解し，実践できる	B	B	B																			
	ガイドラインに基づく医療を実践している	A	A	A																			
(2)	生涯学習																						
	定期的に医学雑誌を読んでいる	A	A	A																			
	学術集会・地方会に参加している	A	A	A	3	名称	日付	内容															
					No.1																		
					No.2																		
					No.3																		
	学術集会・地方会で発表している	B	B	B	2	名称	日時	共同演者・内容															
					No.1																		
					No.2																		
	学会主催の講演会、研修会に参加している	B	B	B	2	名称	日時	内容															
					No.1																		
					No.2																		
	医学研究に関する倫理について会得している	A	A	A																			
	医学研究に関する利益相反について理解している	A	A	A																			
	基礎研究の発表・論文を理解できる	C	C	C																			
	臨床研究を適切に立案し実施できる	B	B	B																			
	学会発表を適切に行うことができる	B	B	B																			
	医学論文を適切に作成することができる	B	B	B																			

V 医師としての倫理性・社会性

分類	項目	到達レベル			経験した日付・内容				1年次	1年次指導責任者評価				2年次	2年次指導責任者評価				3年次 自	3年次指導責任者評価			
		1年次	2年次	3年次	経験数	名称	日時	内容	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	自己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名	己評価	評価	施設番号	評価日	責任者名
V	医師としての倫理性・社会性など																						
(1)	医事法制																						
a	医師法																						
	医師法の概略を理解している	A	A	A																			
b	医療法																						
	医療法の概略を理解している	B	B	B																			
c	身体障害者福祉法																						
	身体障害者福祉法の概略を理解している	A	A	A																			
d	医療保険制度																						
	医療保険制度を理解している	A	A	A																			
d	社会保障制度																						
	介護保険制度のサービスについて概略を理解している	B	B	B																			
	障害者総合支援法のサービスについて概略を理解している	B	B	B																			
(2)	医療経済																						
	日本の医療経済の状況を理解している	C	C	C																			
	最新の診療報酬の概略を理解している	C	C	C																			
(3)	医療倫理・医療安全□																						
a	医療倫理																						
	医療倫理に関する講習会・研修会に参加している	A	A	A	1	名称	日時	内容															
	医療倫理に沿った研究・診療を実施している	A	A	A																			
	インフォームド・コンセントに基づいた診療を実践できる	A	A	A																			
b	医療安全																						
	医療安全に関する講習会・研修会に参加している	A	A	A	1	名称	日時	内容															
	リスクマネージメントについて理解している	B	B	B																			
(4)	医師としての態度・連携																						
a	態度（倫理性・社会性など）																						
	患者・家族とのコミュニケーション能力がある	A	A	A																			
	入院サマリーの作成力と迅速さがある	A	A	A																			
	患者さん家族への思いやりがある	A	A	A																			
	上司，同僚，他の職員との協調性がある	A	A	A																			
	医療スタッフに対する指示の適正である	A	A	A																			
	時間・約束の厳守ができる	A	A	A																			
	マナー・挨拶・服装・身だしなみが適正である	A	A	A																			
	責任感・誠実性がある	A	A	A																			
	積極性・行動力・勤勉性がある	A	A	A																			
b	マネージメント																						
	チームアプローチ・チーム医療の管理																						
	リハビリチームの構成とスタッフの役割を理解し，医師の役割を果たせる	A	A	A																			
	リハビリチームを構成・管理することができる	A	A	A																			
c	地域連携																						
	地域における社会資源を把握している	B	B	B																			
	地域のスタッフと交流できる	B	B	B																			
	地域連携クリニカルパスに添ったマネージメントができる	B	B	B																			

(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次　自己評価	1年次指導責任者評価				2年次　自己評価	2年次指導責任者評価				3年次自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(1)	脳血管障害・外傷性脳損傷など		15															
①	脳血管障害		13															
Ⅰ	知識																	
	脳卒中の分類を理解している	A																
	損傷部位による障害の違いを理解している	A																
	急性期脳卒中の治療を理解している	A																
	機能予後予測ができる	A																
Ⅱ	診断・評価　(診療技術)																	
	損傷部位ならびに程度を診断できる	A																
	評価尺度を用いて中枢性運動障害を評価できる	A																
	高次脳機能障害を評価できる	A																
	摂食・嚥下障害を評価できる	A																
	排尿障害を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる																	
	再発予防(薬物療法)	A																
	痙攣発作	A																
	水頭症	B																
b	特徴的な障害と合併症の管理ができる																	
	摂食・嚥下障害	A																
	排泄障害	A																
	肩手症候群	A																
	肩関節亜脱臼	A																
	痙縮	A																
c	適確なリハ処方ができる	A																
d	補装具の処方ができる	A																
e	退院・自宅復帰に向けた支援ができる	B																
②	外傷性脳損傷		2															
Ⅰ	知識																	
	外傷性脳損傷の分類を理解している	A																
	損傷部位による障害の違いを理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　(診療技術)																	
	損傷部位ならびに程度を診断できる	A																
	評価尺度を用いて，中枢性運動障害を評価できる	A																
	高次脳機能障害を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる																	
	痙攣発作	B																
b	特徴的な障害と合併症の管理ができる																	
	摂食・嚥下障害	A																
	高次脳機能障害	B																
	排泄障害	A																
	痙縮	A																
c	適確なリハ処方ができる	A																
d	補装具の処方ができる	A																
e	神経心理学的アプローチができる	A																
f	外的補助手段・包括的アプローチ	B																
g	復学就学・復職就業支援ができる	C																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

外傷性脊髄損傷

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次　自己評価	1年次指導責任者評価				2年次　自己評価	2年次指導責任者評価				3年次自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(2)	外傷性脊髄損傷*		3															
Ⅰ	知識																	
a	脊髄損傷の分類を理解している																	
	外傷性脊髄損傷	A																
	その他の脊髄障害	A																
b	脊髄損傷の病態を理解している																	
	損傷レベルと機能予後	A																
	損傷部位と病型	A																
c	脊髄損傷の合併症を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　(診療技術)																	
a	損傷レベルと病型を診断できる	A																
b	自律神経障害を理解している	A																
c	評価尺度を用いて機能障害を評価できる																	
	ASIA	A																
	Zancolli分類	B																
	Frankel分類	A																
d	排尿障害を評価できる	B																
e	呼吸障害を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる	A																
b	急性期の医学的管理ができる	B																
c	特徴的な障害と合併症を管理できる																	
	自律神経過反射	B																
	異所性骨化	B																
	排泄障害	B																
	褥瘡	A																
	疼痛	A																
	痙縮	A																
	呼吸障害	A																
d	適確なリハ処方ができる	A																
e	補装具の処方ができる	A																
f	心理学的アプローチができる	B																
g	退院・自宅復帰に向けた支援ができる	B																
h	復学就学・復職就業支援ができる	B																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

*但し、脊髄梗塞、脊髄出血、脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍等、外傷性脊髄損傷と同様の症状を示す疾患を含めてもよい

(3) 運動器疾患・外傷

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次 自己評価	1年次指導責任者評価				2年次 自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(3)	運動器疾患・外傷		22															
①	関節リウマチ□		2															
Ⅰ	知識																	
	症状の発現機序を理解している	B																
	関節変形の名称と特徴を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	診断基準に沿って診断できる	A																
	機能障害ADL(class分類)を評価できる	A																
	進行度(Stage分類)を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる																	
	薬物療法を理解している	A																
b	適確なリハ処方ができる	A																
c	補装具の処方ができる	B																
d	生活指導ができる	A																
②	肩関節周囲炎、腱板断裂などの肩関節疾患		2															
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	X線学的検査などの画像所見を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
	薬物療法が行える	B																
	適確なリハ処方ができる	A																
	生活指導ができる	A																
③	変形性関節症(下肢)		2															
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	X線学的検査などの画像所見を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
	膝関節穿刺が出来る	B																
	生活指導ができる	A																
④	骨折		2															
Ⅰ	知識																	
	代表的な骨折(大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折など)を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	X線学的所見を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	B																
	生活指導ができる	A																
⑤	骨粗鬆症		1															
Ⅰ	知識																	
	骨代謝、発症のメカニズムを理解できる	A																
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	基礎疾患の知識をもとに原発性、続発性の判断ができる	B																
	X線学的検査などの画像検査の所見を評価できる	B																
	骨折のリスクを理解できる。	C																
Ⅲ	治療																	
	薬物療法を行うことが出来る。	B																
	適切な運動処方を行うことが出来る	A																
	生活指導ができる	A																
⑥	腰痛・脊椎疾患		2															
Ⅱ	診断・評価 （診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	X線学的検査などの画像所見を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	薬物療法が行える	B																
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
	生活指導ができる	A																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

（4）小児疾患

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次　自己評価	1年次指導責任者評価				2年次　自己評価	2年次指導責任者評価				3年次自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(4)	小児疾患		5															
①	脳性麻痺		2															
Ⅰ	知識																	
	脳性麻痺の定義を理解している	A																
	病型分類を理解している	A																
	成人脳性麻痺の問題点（二次障害）を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	発達を評価できる	A																
	原始反射が評価できる	A																
	評価尺度を用いて中枢性運動障害や運動機能予後を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる	A																
b	特徴的な障害と合併症の管理ができる																	
	痙攣	B																
	痙縮	A																
	呼吸障害	A																
	摂食・嚥下障害	B																
c	適確なリハ処方ができる	A																
d	補装具の処方ができる	A																
e	手術療法の適応が判断できる	B																
f	就学・就労・在宅支援ができる	B																
②	二分脊椎																	
Ⅰ	知識																	
	二分脊椎の分類を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	麻痺レベルと歩行を評価できる	A																
	排尿障害を評価できる	A																
	脊柱・下肢変形を評価できる	A																
	水頭症・キアリ奇形・脊髄係留を診断できる	B																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる	B																
b	特徴的な障害と合併症の管理ができる																	
	排泄障害	B																
	水頭症	B																
	脊柱・下肢変形	B																
c	適確なリハ処方ができる	A																
d	補装具の処方ができる	A																
e	手術療法の適応が判断できる	C																
f	就学支援ができる	B																
③	発達障害																	
Ⅰ	知識																	
	発達障害の分類を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害を診断できる	C																
Ⅲ	治療																	
a	原疾患と併存症に対応できる	B																
b	適確なリハ処方ができる	B																
c	家庭での対応に関して家族指導ができる	B																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

(5) 神経筋疾患

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次 自己評価	1年次指導責任者評価				2年次 自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(5)	神経筋疾患□		10															
①	パーキンソン病＊		2															
Ⅰ	知識																	
	パーキンソン病の症状を理解している（運動・非運動症状）	A																
	薬物療法を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	評価尺度を用いて中枢性運動障害を評価できる(UPDRS)	B																
	障害度を評価できる(Hoehn & Yahr重症度分類)	A																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
②	脊髄小脳変性症																	
Ⅰ	知識																	
	病型分類を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	診断基準にそって診断できる	A																
	評価尺度を用いて中枢性運動障害の評価ができる	A																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
③	多発性硬化症																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している(MSとNMO)	A																
	薬物療法を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	評価尺度を用いて中枢性運動障害の評価ができる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	生活指導ができる	A																
④	筋萎縮性側索硬化症																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
	人工呼吸器の適応を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	筋電図による診断ができる	B																
	呼吸障害を評価できる	A																
	摂食・嚥下障害を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
	人工呼吸器の管理ができる	B																
	心理的サポートができる	B																
⑤	多発性神経炎																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
	薬物療法を理解している	B																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	筋電図による診断ができる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
⑥	ポストポリオ症候群																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	筋電図による診断ができる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
	生活指導ができる	A																
⑦	末梢神経障害																	
Ⅰ	知識																	
	末梢神経損傷の分類を理解している	A																
	末梢神経の再生過程を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	症状を評価できる	A																
	筋電図による診断ができる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
⑧	筋ジストロフィー																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	筋ジストロフィーを分類できる	B																
	機能障害度を評価できる(厚生労働省分類)	B																
	筋電図による診断ができる	B																
	筋生検による診断ができる	C																
	呼吸障害を評価できる	B																
	摂食・嚥下障害を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
	補装具の処方ができる	A																
	就学、就労、在宅支援ができる	B																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

*但し、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、
大脳皮質基底核変性症などを含めてもよい

(6) 切断

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次　自己評価	1年次指導責任者評価				2年次　自己評価	2年次指導責任者評価				3年次自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(6)	切断□		3															
Ⅰ	知識																	
	切断部位による機能的特徴を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　(診療技術)																	
	断端の状態(形状，断端長)を評価できる	A																
	合併症を評価できる	A																
	幻肢について評価ができる	B																
Ⅲ	治療																	
	断端管理ができる	A																
	義肢の処方ができる	A																
	義肢の適合判定ができる	A																
	異常歩行を判別できる	A																
	合併症に対応できる	A																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

(7) 内部障害

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次　自己評価	1年次指導責任者評価				2年次　自己評価	2年次指導責任者評価				3年次自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(7)	内部障害		10															
①	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・拘束性換気障害・長期人工呼吸管理など）		2															
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
	人工呼吸器とその管理の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	呼吸障害を評価できる	A																
	6分間歩行検査を実施できる	A																
Ⅲ	治療																	
	生活指導ができる	A																
	適確なリハ処方ができる	A																
②	心・大血管疾患（心筋梗塞・心不全・大動脈解離・高血圧・弁置換術後など）		2															
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価（診療技術）																	
	心電図を評価できる	A																
	NYHA機能分類によって評価できる	A																
	画像検査の所見を評価できる	A																
	心肺運動負荷試験を実施できる	B																
Ⅲ	治療																	
	生活指導ができる	A																
	適確なリハ処方ができる	A																
③	末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症・深部静脈血栓症など）		1															
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	末梢循環障害を診断できる	A																
	画像検査の所見を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	生活指導ができる	A																
	適確なリハ処方ができる	A																
④	その他の内部障害（糖尿病・慢性腎疾患など）		2															
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価　（診療技術）																	
	疾患に伴う障害を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	生活指導ができる	A																
	適確なリハ処方ができる	A																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															

(8) その他

分類	項目	到達レベル	経験すべき症例数	1年次 自己評価	1年次指導責任者評価				2年次 自己評価	2年次指導責任者評価				3年次 自己評価	3年次指導責任者評価			
					評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名		評価	施設番号	評価日	責任者名
(8)	その他□(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など)		7															
①	廃用症候群		2															
Ⅰ	知識																	
	病態を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価 (診療技術)																	
	機能障害を評価できる	A																
	リスク管理ができる	A																
Ⅲ	治療																	
	生活指導ができる	A																
	適確なリハ処方ができる	A																
	リハビリテーションの禁忌・中止基準を理解している	A																
	医療スタッフに予防・改善のための指示、指導ができる	A																
②	がん		1															
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ	診断・評価 (診療技術)																	
	患者の状態把握が行える	A																
	がんによる障害、治療による障害を評価できる	A																
	がんの転移を評価できる	A																
Ⅲ.	治療																	
	疼痛の管理ができる	B																
	心理的アプローチができる	B																
③	疼痛性疾患 (慢性疼痛・複合性局所疼痛症候群など)																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ.	診断・評価 (診療技術)																	
	疼痛を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	慢性疼痛の管理ができる	B																
	心理的アプローチができる	B																
④	皮膚疾患 (熱傷・浮腫・皮膚潰瘍など)																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	B																
Ⅱ.	診断・評価 (診療技術)																	
	原疾患に伴う障害、合併症を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	B																
⑤	認知症																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	A																
Ⅱ.	診断・評価 (診療技術)																	
	障害を評価できる	A																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	A																
⑥	精神疾患 (統合失調症・適応障害・身体表現性障害など)																	
Ⅰ	知識																	
	疾患の概要を理解している	B																
Ⅱ.	診断・評価 (診療技術)																	
	障害を評価できる	B																
Ⅲ	治療																	
	適確なリハ処方ができる	B																
☆	病態別実践リハビリテーションDVD視聴		達成テスト															